1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400360		
法人名	社会福祉法人 明生会		
事業所名	グルーホーム悠		
所在地	福島県いわき市平赤井一の町62-1		
自己評価作成日	平成29年5月10日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな、住み慣れた地域で「その人らしさ」を大切に、持って居る力を発揮しながら、安心と尊厳のある暮らしが出来るよう取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1 事業所は、地域福祉のため子ども避難所として登録する他、中学校の職場体験を受け入れている。また、住民からの介護相談に応じるなど認知症への理解に努めている。さらに子ども神輿、生け花・懐メロなど利用者も一緒に楽しめるボランティアを積極的に受け入れるなど地域との交流を深めながら開かれた施設づくりに取り組んでいる。
 2 毎月、職員全員でモニタリングを実施し、利用者一人ひとりの状況に応じたケアの在り方を話し合い、介護技術の共有と統一を図っている。また、利用者の安心と尊厳ある生活を目指す理念に沿ったケアの実践を通して利用者がこれまでの生活を継続できる環境づくりに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社会福祉法人明生会の理念とグループホーム悠の基本理念を玄関に掲示し日常において職員がその趣旨を理解し実践につなげている。又、毎月の職員会議の中で唱和し共有を図っている。	毎月、職員会議で理念を唱和し、共有を図っている。また、いつでも確認できるように、玄関に法人と事業所の理念を掲示している。さらにミーティングやモニタリングでは、理念に照らしながら個別のケアを検討し、職員で共有して実践に結びつけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供避難の家に登録し地域の子供達に活用していただけるようにしている。中学生の学習体験の受け入れ、子供神輿の訪問などがある。	毎年、地元の中学生の職場体験学習を受け入れている。また、多くのボランティアを積極的に受け入れ、生け花や懐メロの合唱など利用者も楽しんで参加し交流を図っている。近隣の商店とは、利用者が徘徊した時の通報など協力を得られる関係になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の相談の受け入れや中学生の体験学習の際に認知症についての理解や介護に対しての理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	定期的に開催しており、ご利用者様やご家族、民生員、地域包括支援センター、駐在様などへの報告や意見交換を行い、参考にしその後の運営に活かすよう努めている。	2か月に1回、利用者、家族、民生委員、駐在、地域包括センターが参加し、開催している。毎回、利用者全員と大半の家族が参加している。事業所からは活動状況、食事メニュー、ヒヤリハットなどの報告をしている。参加者から出された意見や要望は、検討のうえ運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに相談したり、事業所の情報を提供したりしている。介護相談員、地域包括支援センターの方との連携を行っている。	市の担当者と提出書類の作成や運営について、その都度相談し連絡を密にしている。また、介護認定更新などの書類提出時には、直接出向いて事業所の実情やケアの取り組みを伝達し、アドバイスを受けるなど協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や中庭など自由に出入り出来るようにしている。利用者の行動や行為を阻止しない取り組みをしている。	廊下にマニュアルを掲示し、身体拘束に関する通知や資料は速やかに職員全員に配布し、注意喚起している。また、ミーティングなどで、身体拘束をしないケアを確認し、玄関や中庭へ出入りを自由にするなど、できるだけ利用者の行動を制限しない取り組みを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して虐待について職員全員が理解し実行している。言葉掛けにも注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行った時の資料を各自保管し常に目を通すよう努めている。国や市の広報などがあった場合は、回覧を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時に十分説明し、理解、納得を頂いた上で契約をむすんでいる。ご家族の不安や疑問には、必要時にその都度説明し、同意を貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や面会時、運営推進会議時に出席者に声かけを行い意見の汲み取りに努めている。	家族は、面会時に直接職員に意見や苦情を伝えてくる事が多い。家族会はないが、運営推進会議終了後に、毎回、家族との話し合いの場を設けている。その中で、出された事業所に対する意見や要望を運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングや勤務中においても職員の意見や提案が聞けるよう努めている。	職員会議等で、職員の意見や要望を聞いている。職員から出された業務日誌の改善要望を職員全員に諮り、様式を変更するなど職員の意見を業務に反映している。また、職員は管理者や法人本部へ自由に相談でき、意見や苦情を出しやすい体制がとられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体の管理者会議で十分に話し合いを設け、各自の状況や実績に合わせた環境把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ多数の職員が参加出来る提供を行い参加後は、研修について全職員に報告し共有する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会などと連携を取り交流を深めながらサービスの向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活歴や入所に至るまでの経緯を職員全員が理解し、共有する。利用前に面談を行い本人、家族の要望を確認して信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と家族の状況を理解し、共感しながらそれぞれの思いを受け止め不安内容や要望を丁寧に確認して関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時に何を必要としているか、本人、家族の要望を見極めて必要とする支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は介護するだけではなく、人生の先輩として学び、本人を中心とした、本人が安心して共に生きる仲間として支え合う関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時には、日々の暮らしの様子をお伝えし、意向も伺い参考にしている。又、状況の変化の度に家族と情報を共有し、支え続けて行く関係作りをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや買い物など慣れ親しんだ地域へ出かけたり、古くからの知人が遠慮無く面会に来られるよう配慮し支援している。	入居時に、本人や家族からこれまで築いてきた人間関係を把握し、関係が途切れないよう支援している。知人や友人が訪ねてきた時には、居室に小さなテーブルを用意するなど、ゆっくり歓談できるように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合うもの同士が寛げるような席の配置をしたり、外出支援時を機会に仲間作りが出来るように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、機会を作り訪ねるなどして良好な関係に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で本人の希望や意向の把握に努めている。本人の確認が困難な場合は、面会時などに家族と検討している。	利用者の思いや希望は、入居時に本人や家族から聴きとり、支援に活かしている。また、会話ができる利用者には、日常の会話などを通して把握に努めている。また、会話が困難な利用者は、日頃のケアを通して、表情や態度から思いを汲み取り本人本位の支援に結び付けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴を把握し、使い慣れた家具などの必需品を居室に置くなど、環境を整え継続出来るよう支援して行く。家族の面会時などを利用し情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状況を把握し、それぞれに合ったケアを行うように努めている。又、本人の有する能力の発見に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時に職員全員でモニタリングを行いそれぞれの気づきと対応を話し合い反映に努めている。	ケアプランは、介護支援専門員が本人と家族から聴き取った思いや希望を基に、職員から情報収集を行い、カンファレンスで協議しながら定期的に見直しが行われている。また、毎月、職員会議で全員でモニタリングを行い、情報を共有しており、状況の変化を反映した個別計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各利用者ごとに個別記録を用意し、生活記録や食事量、排泄のリズムなどを記入し、情報を共有しながら新たな気づきに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて、利用者や家族の要望、ニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお店を利用したり小中学生との関わりを持ち、又地域の警察や民生委員とも情報を交換し、連携に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携体制を結んでおり、定期的な往診に加え、いつでも適切な医療が受けられるようにしている。かかりつけ医との継続支援も行っている。	家族の希望で往診対応が可能な協力医に受診している。皮膚科など専門医の受診は看護師が付き添い、可能な場合、家族も同伴し受診している。受診結果は電話や医師から交付された診療情報書の送付などで家族と情報の共有をしている。協力医は夜間・休日なども対応可能で適切な医療が受けられる体制にある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職が情報交換を行い、常に適切な受診や看護が出来る体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的に面会に行き、家族、主治医、看護師、相談員と話し合いながら、退院後の受け入れを整える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身の状況の変化は家族へ報告し、重度化した場合にはホームで出来る事をあらかじめ伝えると共に本人、家族の希望にも沿ったケアになるように話し合う事している。看取りを行っている。	利用開始時に重度化した場合の対応並びに看取りについて説明し、同意を得ている。重度化した段階で再度、医師、看護師、管理者、家族も含め看取りについて話し合い意向に沿った支援を行っている。看取り後は職員間で振り返りを行い、より良い支援について話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法を定期的に学び、ミーティング時に看護師を交え緊急時の対応について話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に自主訓練を行い、年に一回から二回の消防署員立会の講習を受けている。	法人の防災マニュアルが定められ、消防立ち会いの避難訓練を含め毎月避難、通報、夜間想定訓練が実施されている。地域の燃料店とは災害時の協力を取り付け連絡先となっている。また、5日分の食料が備蓄されている。水害等は避難経路が橋を渡るようになっており課題と考えている。	水害の時などは橋を利用できない場合も想定できるので他の避難経路や避難場所の検討も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の取り扱いに注意しながら、一人ひとりの生活歴や性格に合った言葉掛けを行うよう努めている。	利用者同士の言葉遣いにも注意し相手を傷つける言動が見られれば間に入っておさめている。利用者の生活歴を把握し誇りを傷つけないよう言葉に留意している。また、利用者に説明し納得を得てから支援に入っている。トイレ、入浴などもプライバシーに配慮し個別対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望などを表せるような言葉掛けや環境を作り自由に表現出来るような接し方に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりに寄り添って本人のペースを優先し見守りやお話を傾聴している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい、おしゃれや身だしなみを大切にし生活が明るく楽しくなるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	栄養士によるバランスのとれた献立を提供し、時には買い物と一緒にしている。	利用者が重度化しており食事の作業などへの参加は困難になってきているが、買い物と一緒に行くこともある。職員は各テーブルに入り一緒に同じ食事をとりながら献立をはじめ様々な話題を利用者と交わすなど、楽しい雰囲気を感じられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士により計算されている。固さや大きさも一人ずつ工夫し食べやすいように支援している。又こまめな水分補給に気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態に応じたケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を促せるよう声掛け、誘導を行っている。	排泄チェックを行い、排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っている。排泄自立を継続できるよう、おむつは極力使わず、リハビリパンツやパットの利用、トイレでの排泄に努めている。声掛けもさりげなく行い羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排泄の確認を行い、適度な運動、水分摂取に気を配り便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの入浴の希望を伺い、順番やタイミングを調整しながら支援している。	入浴順など利用者の希望を聞きながら週3回を目安に入浴をしているが、希望があれば可能な限り支援している。入浴介助はリスクがなければ脱衣、入浴、着衣迄1人の職員で対応し、ゆっくり入浴できるよう配慮している。希望があれば同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう配慮しつつ、居室で休む時間や一人で過ごす時間を大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでも確認出来る様、ファイルしており、必要があった場合、職員全員が確認出来るようにしている。服薬においては、職員が名前を確認し手渡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれ好きな役割があり、負担にならないよう支援している。又、生け花や歌などを楽めるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気や体調を考慮してドライブや散歩、買い物に出かけている。季節にあった行事への参加提供を行っている。	重度化により全員で外出する機会は従来より減ってきているが、その日の希望などで少人数でドライブや買い物に出かけている。車椅子での散歩、近隣の商店への外出、中庭での外気浴などなど利用者の状況に応じた外出により気分転換に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で、お金を持っていた方が安心される方のみ、手元に少額所持して頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて家族や知人に電話や手紙が出せるよう支援している。電話があった時は、本人につないでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内に温度計、湿度計が設置しており、常に気を配っている。ホーム内の飾り付けも季節を感じられるようにしている。	リビングは天窓もあり明るく、壁面は利用者と一緒に作った紫陽花の貼り絵や個人の塗り絵の作品が飾られ、季節感や温かさが感じられ、落ち着いた雰囲気となっている。エアコンや加湿器で温度や湿度が調整され居心地の良い空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室、ホールのソファ、それぞれのテーブル、ウッドデッキなど自由に気のあった同士で過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	本人や家族と相談しながら、自宅で使用していただいたベッド、家具、写真などを持って来て頂きその人らしい居心地の良い空間になるよう支援している。	なじみの筆筒や椅子、写真、本人の作品が飾られており、個性を生かした部屋となっている。畳の部屋もあり利用者のこれまでの生活を継続できるよう配慮されている。職員が利用者と一緒に毎日清掃し清潔で居心地の良い環境が整えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に、持っている能力を活かし生活出来るような環境作りに努めている。		